



## 2022年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年11月8日

上場会社名 株式会社アクセル 上場取引所 東  
 コード番号 6730 URL <https://www.axell.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松浦 一教  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 管理グループ (氏名) 植野 悦匡 TEL 03-5298-1670  
 ゼネラルマネージャー  
 四半期報告書提出予定日 2021年11月10日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2022年3月期第2四半期の連結業績（2021年4月1日～2021年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第2四半期	5,021	17.8	504	87.1	523	74.9	421	81.6
2021年3月期第2四半期	4,262	10.3	269	216.2	299	216.6	231	157.6

(注) 包括利益 2022年3月期第2四半期 382百万円 (31.2%) 2021年3月期第2四半期 291百万円 (340.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第2四半期	38.98	—
2021年3月期第2四半期	20.71	—

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年3月期第2四半期	11,062	10,156	91.4	933.95
2021年3月期	11,132	10,071	90.1	929.16

(参考) 自己資本 2022年3月期第2四半期 10,106百万円 2021年3月期 10,032百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	0.00	—	31.00	31.00
2022年3月期	—	0.00	—	—	—
2022年3月期（予想）	—	—	—	21.00	21.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2022年3月期の連結業績予想（2021年4月1日～2022年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,600	6.7	450	△16.1	560	△20.6	440	△34.4	40.69

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

当社は、2021年7月26日開催の取締役会において、譲渡制限付株式報酬としての自己株式の処分を行うことを決議しております。連結業績予想の「1株当たり当期純利益」につきましては、当該自己株式の処分の影響を考慮しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 ー社（社名）ー、除外 ー社（社名）ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

（注）詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

（注）詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年3月期2Q	11,211,989株	2021年3月期	11,211,989株
② 期末自己株式数	2022年3月期2Q	391,057株	2021年3月期	414,552株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年3月期2Q	10,804,101株	2021年3月期2Q	11,194,352株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

（四半期決算補足説明資料の入手方法）

四半期決算補足説明資料は2021年11月10日（水）にT D n e tで開示するとともに、当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(会計方針の変更)	8
(追加情報)	9
(セグメント情報)	9
3. その他	10
最近における四半期毎の業績の推移	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### （1）経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、社会経済活動が制限される厳しい状況で推移しましたが、ワクチン接種の着実な普及により行動制限は緩和されつつあり、社会経済活動は正常化されていくことが期待されております。しかしながら、国内外の感染症の動向やサプライチェーンを通じた原材料費高騰の影響など、景気の先行きは不透明な状況が続いております。

当社グループの主力市場であるパチンコ・パチスロ機市場は、遊技ホールの厳しい経営環境を背景に新台の購入意欲が低迷するなど厳しい市場環境が続いております。一方で当連結会計年度におきましては、2020年5月に施行された改正規則附則に伴う旧規則機の新たな設置期限に向けた新規機への入れ替え需要が期待されております。

かかる環境の中で当社グループは、従業員及び取引先を含めた関係者の皆さまの安全を最優先とした新型コロナウイルス感染症対策を実施したうえで、パチンコ・パチスロ機市場での安定収益確保に向けた取り組み、組み込み機器市場（注1）に向けたグラフィックスLSIの販売拡大、さらにはミドルウェア、機械学習/AI、ブロックチェーン、セキュリティの新規4領域における早期事業化に向けた活動に注力いたしました。また、新規事業の展開を加速させる観点から、組織再編やアライアンス、出資の検討等を積極的に実施いたしました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は前年同四半期比759百万円増（同17.8%増）となる5,021百万円となりました。売上総利益は売上高の増収に伴い前年同四半期比62百万円増（同4.1%増）となる1,593百万円、売上総利益率は同4.2ポイント低下となる31.7%となっております。売上総利益率の低下は、相対的に利益率の高いグラフィックスLSIの販売構成比率が低下したことに加え、世界的な半導体製品の需給ひっ迫に起因した一部製品の仕入れ単価見直しに伴う原価率上昇の影響によるものです。販売費及び一般管理費は、前年同四半期比172百万円減（同13.7%減）となる1,088百万円となりました。販売費及び一般管理費のうち研究開発費は、前年同四半期比197百万円減（同26.8%減）となる540百万円となっております。

以上により、営業利益は前年同四半期比235百万円増（同87.1%増）となる504百万円、経常利益は前年同四半期比224百万円増（同74.9%増）となる523百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同四半期比189百万円増（同81.6%増）となる421百万円となりました。

なお、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しておりますが、その影響額は軽微なものとなっております。詳細につきましては、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」をご参照ください。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。なお、前連結会計期間まで「LSI開発販売関連」セグメントに含めておりました組み込み機器向け製品は、新規事業との関係性が深まってきていることから、第1四半期連結会計期間より「新規事業関連」セグメントに変更しております。前年同四半期比較の説明は、変更後の報告セグメント区分に基づき行っております。

#### ① LSI開発販売関連

LSI開発販売関連は既存事業であるパチンコ・パチスロ機向け製品で構成されており、売上高は前年同四半期比727百万円増（同17.9%増）となる4,789百万円、セグメント利益は同238百万円増（同30.7%増）となる1,014百万円となりました。主力製品であるパチンコ・パチスロ機向けグラフィックスLSIは前年同四半期に対し約1.1万个減少となる約21.5万个の販売にとどまりましたが、メモリモジュール（注2）製品は新規販売ベースでは前年同四半期を上回る販売数となったほか、高単価製品の販売比率が上昇したことにより、売上高は大幅に増加いたしました。また、当第2四半期末の同セグメントの受注残高は8,799百万円となっております。なお、半導体市場の需給ひっ迫の影響から多くのメーカーにおいて部材を積極的に確保する動きを見せており、本受注残には来期以降の販売予定分が含まれております。

#### ② 新規事業関連

新規事業関連は、組み込み機器向け製品に加え、ミドルウェア、機械学習/AI、ブロックチェーン、セキュリティ領域に向けたスタートアップ事業であり、組み込み機器向け及び機械学習/AI領域での売上高を中心に、売上高は前年同四半期比32百万円増（同16.1%増）となる231百万円、セグメント損失は同6百万円増（前年同四半期は201百万円の損失）となる208百万円となりました。

（注1）「組み込み機器市場」とは、パチンコ・パチスロ機以外の組み込み機器の製造に係る市場として使用しております。組み込み機器とはコンピュータが内部に組み込まれており、そのコンピュータに特定のアプリケーションに特化した処理を行わせる電子装置を意味しております。医療機器や自動販売機、生活家電など多種多岐にわたる機器が組み込み機器に該当いたします。

（注2）「メモリモジュール」とは、パチンコ・パチスロ機の画像表示用基板に搭載される画像データを保持しておく部分の仕組みを意味しております。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末との比較で69百万円減少となる11,062百万円（前連結会計年度末比0.6%減）となりました。主な要因は、現金及び預金の増加（196百万円）に対し、商品及び製品の減少（244百万円）等によるものであります。

当第2四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末との比較で155百万円減少となる905百万円（同14.7%減）となりました。主な要因は、買掛金の減少（209百万円）等によるものであります。

当第2四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末との比較で85百万円増加となる10,156百万円（同0.9%増）となりました。主な要因は、利益剰余金の増加（88百万円）等によるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は8,109百万円（前年同四半期比3.3%増）となりました。各キャッシュ・フローの状況とその要因は、以下のとおりとなっております。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における営業活動により獲得した資金は555百万円（前年同四半期は24百万円の支出）となりました。これは主に当第2四半期連結累計期間における税金等調整前四半期純利益（522百万円）、棚卸資産の減少（250百万円）に対し、仕入債務の減少（209百万円）等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における投資活動により支出した資金は53百万円（前年同四半期は34百万円の獲得）となりました。これは主に投資事業組合からの分配による収入（16百万円）に対し、投資有価証券の取得による支出（57百万円）等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における財務活動により支出した資金は334百万円（前年同四半期は234百万円の支出）となりました。これは主に配当金の支払額（334百万円）等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年3月期の連結業績予想は、2021年5月12日に開示いたしました「2021年3月期 決算短信」に記載のとおりであります。なお、当第2四半期連結累計期間の業績は、通期連結業績予想値に対し営業利益以下の各利益で94%から112%の進捗となっております。しかしながら、半導体市況の世界的な需給ひっ迫の影響やパチンコ・パチスロ機市場における旧規則機の入替え需要後の市場環境が不透明なこと、さらには第3四半期以降にパチンコ・パチスロ機向け次世代製品の試作開発費を見込んでいることなどから、現時点においては積極的に業績予想の修正を実施する状況にはないものと判断しております。なお、今後の状況変化等により、通期の業績予想に修正が必要と判断した場合には速やかに公表いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	7,913	8,109
売掛金	924	—
売掛金及び契約資産	—	869
商品及び製品	1,076	831
仕掛品	7	0
原材料及び貯蔵品	0	0
その他	73	105
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	9,994	9,916
固定資産		
有形固定資産	96	88
無形固定資産		
のれん	41	35
その他	14	10
無形固定資産合計	56	46
投資その他の資産	985	1,010
固定資産合計	1,138	1,145
資産合計	11,132	11,062
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	756	547
未払法人税等	48	123
賞与引当金	—	21
その他	216	173
流動負債合計	1,021	866
固定負債		
資産除去債務	39	39
固定負債合計	39	39
負債合計	1,061	905
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,028	1,028
資本剰余金	871	873
利益剰余金	8,245	8,333
自己株式	△326	△307
株主資本合計	9,819	9,927
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	213	178
その他の包括利益累計額合計	213	178
新株予約権	15	22
非支配株主持分	23	27
純資産合計	10,071	10,156
負債純資産合計	11,132	11,062

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
売上高	4,262	5,021
売上原価	2,730	3,428
売上総利益	1,531	1,593
販売費及び一般管理費	1,261	1,088
営業利益	269	504
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	2	3
投資事業組合運用益	27	15
その他	0	0
営業外収益合計	30	19
営業外費用		
その他	0	0
営業外費用合計	0	0
経常利益	299	523
特別損失		
減損損失	0	—
投資有価証券評価損	0	—
子会社株式評価損	1	—
子会社清算損	—	0
特別損失合計	2	0
税金等調整前四半期純利益	297	522
法人税等	66	105
四半期純利益	230	417
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△1	△4
親会社株主に帰属する四半期純利益	231	421

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
四半期純利益	230	417
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	60	△34
その他の包括利益合計	60	△34
四半期包括利益	291	382
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	292	386
非支配株主に係る四半期包括利益	△1	△4

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	297	522
減価償却費	23	16
のれん償却額	5	5
株式報酬費用	11	17
受取利息及び受取配当金	△2	△3
投資事業組合運用損益 (△は益)	△27	△15
売上債権の増減額 (△は増加)	124	55
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△393	250
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	7	△9
仕入債務の増減額 (△は減少)	208	△209
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	19	△56
その他	△208	12
小計	65	585
利息及び配当金の受取額	2	3
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△93	△34
営業活動によるキャッシュ・フロー	△24	555
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△1	△9
無形固定資産の取得による支出	△1	—
投資有価証券の取得による支出	△28	△57
投資事業組合からの分配による収入	65	16
その他	0	△2
投資活動によるキャッシュ・フロー	34	△53
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
配当金の支払額	△234	△334
その他	△0	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△234	△334
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	0
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△224	167
現金及び現金同等物の期首残高	8,071	7,913
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	28
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,847	8,109

（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動）

特定子会社の異動には該当していませんが、前連結会計年度において非連結子会社でありましたaimRage株式会社は重要性が増したため、第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。

（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）

（税金費用の計算）

税金費用につきましては、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

（会計方針の変更）

（収益認識に関する会計基準等の適用）

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

これにより、知的財産を使用する権利を提供する期間契約型のライセンスの使用許諾料につきましては、従来は契約期間にわたり収益を認識しておりましたが、提供するサービスの内容に基づき一部については顧客が知的財産を使用可能になった時点で一括で収益を認識する方法に変更しております。また、受注制作のソフトウェア等につきましては、従来は顧客への納品・検収等が行われた時点で収益を認識しておりましたが、履行義務を充足するにつれて一定の期間にわたり収益を認識する方法に変更しております。なお、履行義務の充足に係る進捗度を合理的に見積もることができないが、発生する費用を回収することが見込まれる場合は、原価回収基準にて収益を認識しております。履行義務を充足すると見込まれる時点までの期間がごく短い場合は、完全に履行義務を充足した時点で収益を認識しております。

収益認識会計基準等の適用につきましては、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用していません。また、収益認識会計基準第86項また書き(1)に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに行われた契約変更について、すべての契約変更を反映した後の契約条件に基づき、会計処理を行い、その累積的影響額を第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は5百万円減少し、売上原価は4百万円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ1百万円減少しております。また、利益剰余金の当期首残高は3百万円増加しております。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「売掛金」は、第1四半期連結会計期間より「売掛金及び契約資産」に含めて表示することといたしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号 2020年3月31日）第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第2四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載していません。

（時価の算定に関する会計基準等の適用）

「時価の算定に関する会計基準」（企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 2019年7月4日）第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。これによる四半期連結財務諸表への影響はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

前連結会計年度の有価証券報告書の(重要な会計上の見積り)に記載した新型コロナウイルス感染症の今後の拡大状況や収束時期等を含む仮定について重要な変更はありません。

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額(注) 2
	LSI開発販 売関連	新規事業関連			
売上高					
外部顧客への売上高	4,062	199	4,262	—	4,262
セグメント間の内部売 上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	4,062	199	4,262	—	4,262
セグメント利益又は損失 (△)	776	△201	574	△305	269

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△305百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額(注) 2
	LSI開発販 売関連	新規事業関連			
売上高					
外部顧客への売上高	4,789	231	5,021	—	5,021
セグメント間の内部売 上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	4,789	231	5,021	—	5,021
セグメント利益又は損失 (△)	1,014	△208	806	△301	504

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△301百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、「LSI開発販売関連」セグメントに含めておりました組み込み機器向け製品は、新規事業との関係性が深まってきていることから「新規事業関連」セグメントに変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメント区分に基づき作成したものを開示しております。

3. その他  
最近における四半期毎の業績の推移  
2022年3月期

(単位:百万円)

	第1四半期 2021年4月～ 2021年6月	第2四半期 2021年7月～ 2021年9月	第3四半期 2021年10月～ 2021年12月	第4四半期 2022年1月～ 2022年3月
売上高	2,340	2,680	—	—
売上総利益	736	856	—	—
営業利益	195	309	—	—
経常利益	198	324	—	—
税金等調整前四半期純利益	197	324	—	—
四半期純利益	154	262	—	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	158	263	—	—
四半期包括利益	156	226	—	—
1株当たり四半期純利益	14.63円	24.34円	—	—
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	第4四半期末
総資産	10,790	11,062	—	—
純資産	9,906	10,156	—	—
1株当たり純資産	913.12円	933.95円	—	—

2021年3月期

(単位:百万円)

	第1四半期 2020年4月～ 2020年6月	第2四半期 2020年7月～ 2020年9月	第3四半期 2020年10月～ 2020年12月	第4四半期 2021年1月～ 2021年3月
売上高	2,564	1,697	1,975	2,762
売上総利益	938	592	654	906
営業利益又は営業損失(△)	423	△153	37	228
経常利益又は経常損失(△)	425	△126	157	248
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	425	△127	155	246
四半期純利益又は 四半期純損失(△)	336	△105	120	318
親会社株主に帰属する四半期純 利益又は親会社株主に帰属する 四半期純損失(△)	338	△106	121	317
四半期包括利益	384	△92	128	343
1株当たり四半期純利益又は 1株当たり四半期純損失(△)	30.22円	△9.48円	10.95円	29.41円
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	第4四半期末
総資産	10,675	11,235	10,692	11,132
純資産	9,988	9,918	9,724	10,071
1株当たり純資産	890.20円	881.78円	897.37円	929.16円